

FY2027 1Q

# 決算説明資料

ハンワホームズ株式会社（275A）

## INDEX

1

事業概要

2

決算概要

3

セグメント別ハイライト

4

連結業績予想

5

会社概要

# 事業概要

Mission 「感動に出会う空間」と  
「安らぎ続く暮らし」の提供

佇まいが、訪れた瞬間の期待を高める。  
迷いのない動線が、滞在の質を整える。  
光と素材が、品質の基準を引き上げる。  
移ろう時が、記憶に残る表情を育てる。

Vision 住環境におけるあらゆるニーズに応え、  
人々の暮らしを充実させる企業

私たちは、こうした体験価値を設計し、「空間」で確かなかたちにします。

対象は住宅に限りません。商業・宿泊・企業施設から公共領域まで。  
人が暮らし、集い、過ごすすべてを「住環境」と捉え、  
同じ設計思想で向き合います。

Value 「挑戦」「実行」「公益志向」

空間が人の動きや日々の選択を変え、  
やがて街や社会へと波及し、価値の循環を生み出す。  
私たちは、その「変化の起点」をつくり続けます。

2027年2月期より、2社を連結対象に加え、単体中心の事業説明からグループ体制へ移行



空間創造事業・DEPOS事業を展開する中核会社



Park-PFI事業運営を担うプロジェクト会社



建築・不動産領域を担う連結子会社

## 2026年1月、Park-PFI事業会社を共同出資により設立



### ブリッジパークプロジェクトグループ株式会社

ハンワホームズ株式会社と帝燃産業株式会社の共同出資により、ブリッジパークプロジェクトグループ株式会社を設立。ハンワホームズが51%を保有し、2027年2月期第1四半期より連結子会社として取り込む。りんくう公園中地区のPark-PFI事業において、施設の企画、設計、施工監理および運営を担う。

#### 目的

- 1

**Park-PFI事業推進**

行政・共同事業者・運営関係者を含む事業全体の推進
- 2

**施設・コンテンツ企画**

立地や利用者ニーズに応じた施設・交流機能・イベント等の企画
- 3

**運営・利用促進**

開業後の施設運営、利用者接点の形成、継続的な来訪機会の創出

#### 合併会社設立の概要

出資比率	ハンワホームズ 51% / 帝燃産業 49%
設立日	2026年1月21日
事業内容	施設の企画、設計、施工監理及び運営
資本金	300万円

## 2026年3月、ブレイントラスト株式70.0%を取得し子会社化



### ブレイントラスト株式会社

ブレイントラスト株式会社は、戸建住宅、商業施設、土地活用等を対象とした建築コンサルティングと不動産仲介を展開する会社である。建築・不動産を横断して事業性を判断できる知見を取り込むことで、当社グループは遊休不動産の再生・利活用を新たな事業機会として扱う体制を整える。

#### 目的

- 1 **不動産情報の取得**  
遊休不動産・土地活用案件に関する情報接点を拡充
- 2 **活用方針の検討**  
建築・不動産の知見をもとに、活用可能性を判断
- 3 **再生事業への展開**  
買取再販や空間創造・DEPOSとの連携により事業化

#### M&A概要

取得比率	70.0%
取得日	2026年3月21日
事業内容	建築コンサルティング・不動産仲介
取得価額	2百万円

設計施工・販売を基盤に不動産活用と空間運営を加え、バリューチェーンの上流から下流までをカバー

既存基盤

新規機能



2027年2月期 第1四半期

# 決算概要

FY2026 実績

業績ハイライト

売上高

**66,297** 万円

前年同期比

**108.2** %

営業利益

**1,789** 万円

前年同期比

**29.6** %

TOPICS

01

中長期成長に向けた  
基盤整備フェーズ

02

2社連結開始による  
グループシナジー創出

03

外部環境を踏まえた  
収益性管理の徹底

TOPICS

01

**二社連結による  
グループ体制の拡充**

ブリッジパークプロジェクトグループ株式会社とブレイントラスト株式会社を新たに連結対象とした。両社の事業基盤、専門性を活かし、グループ全体での連携とシナジー創出を進める。

02

**次の成長を見据えた  
組織体制の整備**

新たに常務取締役が就任し、経営体制を強化。関西支社および関東支社を設置し、エリアごとの管理体制を明確化。大阪支店は梅田へ移転し、今後の成長を見据えた営業活動と人員拡充に向けた基盤整備を進めている。

03

**外部環境を踏まえた  
収益性管理の徹底**

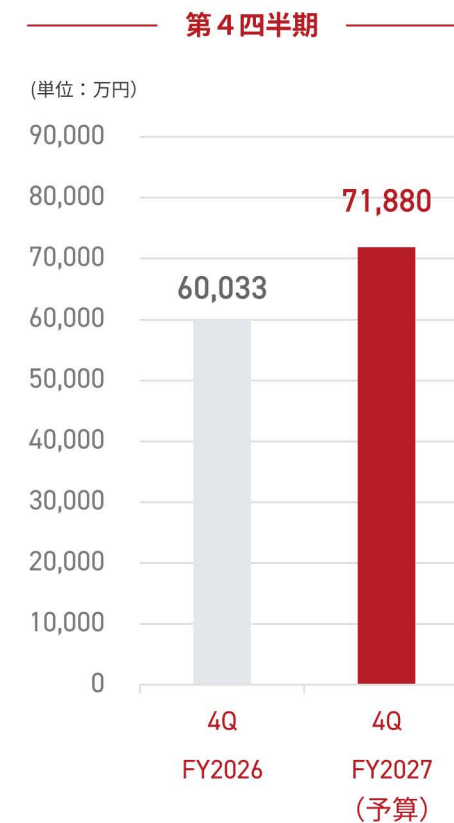
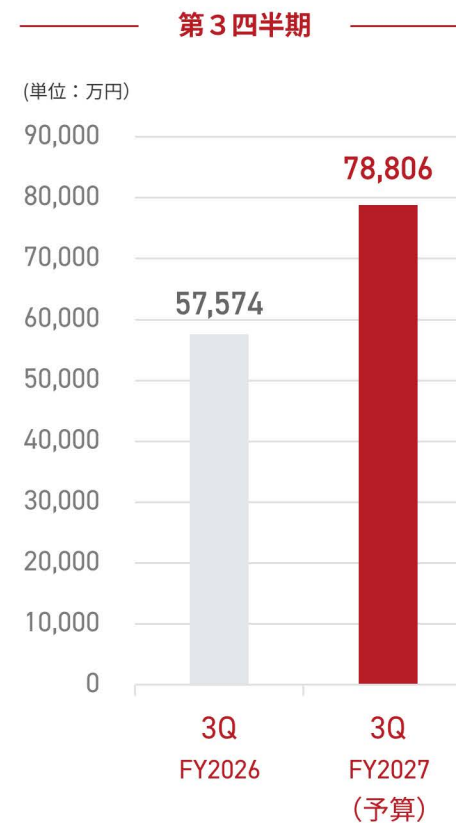
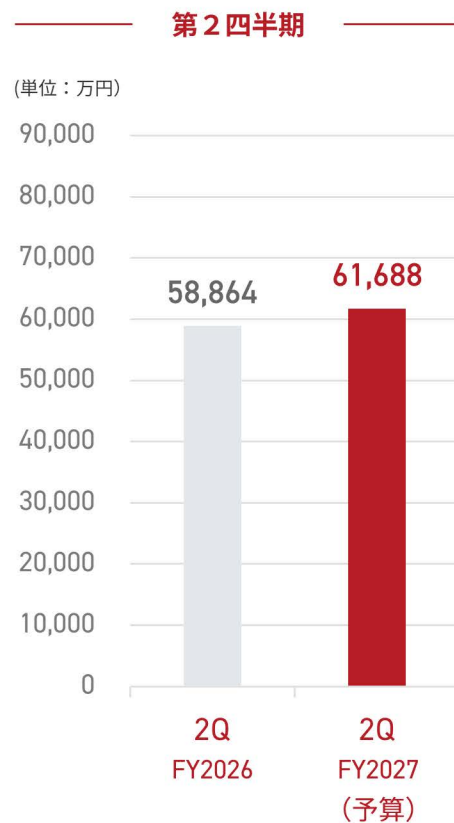
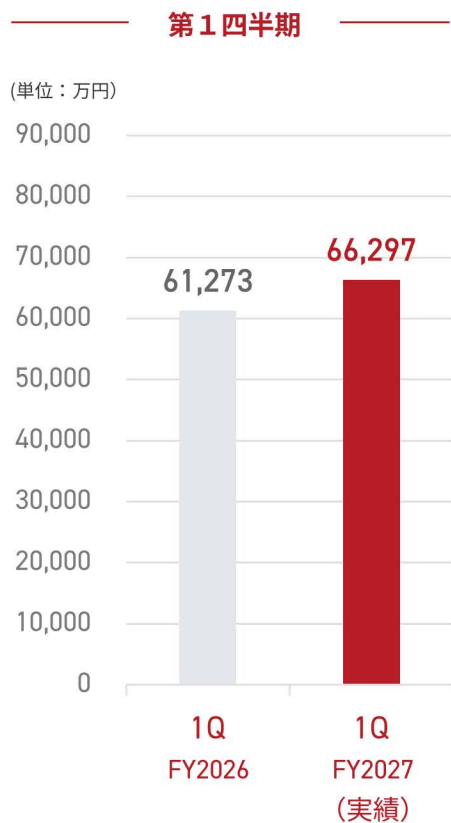
建築資材価格の高騰が続くなか、粗利率は30%を基準に案件管理を行っており、収益性は一定程度コントロールしている。今後も価格変動やコスト上昇を踏まえ、利益水準の維持を図る。

新規法人案件の獲得により着実に売上が成長し、売上高66,297万円となった。建築資材等の原価高騰による売上原価増に加え、今後の事業拡大を見据えた積極的な人材採用、グループ管理体制の整備等を行ったことで営業利益が減少したが、概ね計画通りの着地。

科目 (単位：万円)	2027年2月期 第1四半期 (連結)	2026年2月期 第1四半期 (単体)	増減	増減率
<b>売上高</b>	<b>66,297</b>	<b>61,273</b>	5,023	8.2%
売上原価	43,565	38,890	4,675	12.0%
<b>売上総利益</b>	<b>22,731</b>	<b>22,383</b>	348	1.6%
売上総利益率	34.3%	36.5%	-	-
販管費	20,941	16,327	4,614	28.3%
<b>営業利益</b>	<b>1,789</b>	<b>6,055</b>	△4,265	△70.4%
営業利益率	2.7%	9.9%	-	-
経常利益	1,270	5,475	△3,541	△64.7%
経常利益率	1.9%	8.8%	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	1,643	3,627	△1,983	△54.7%

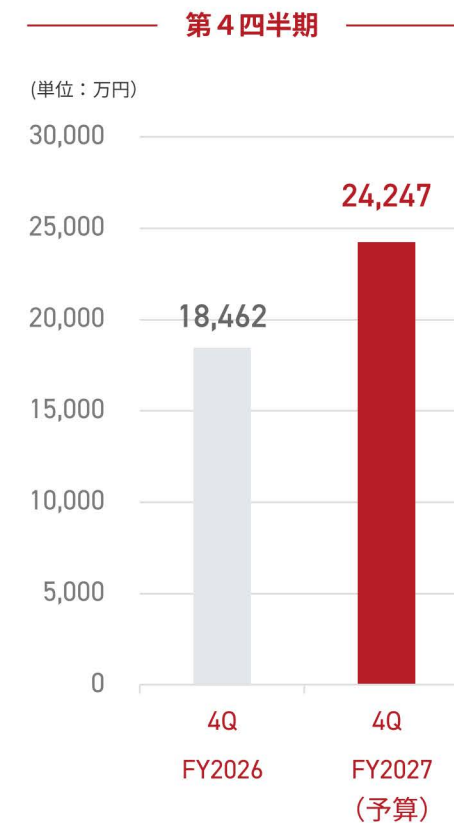
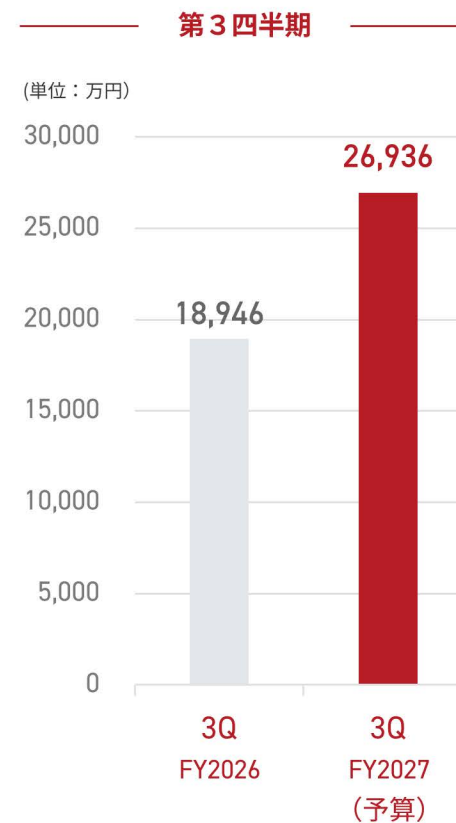
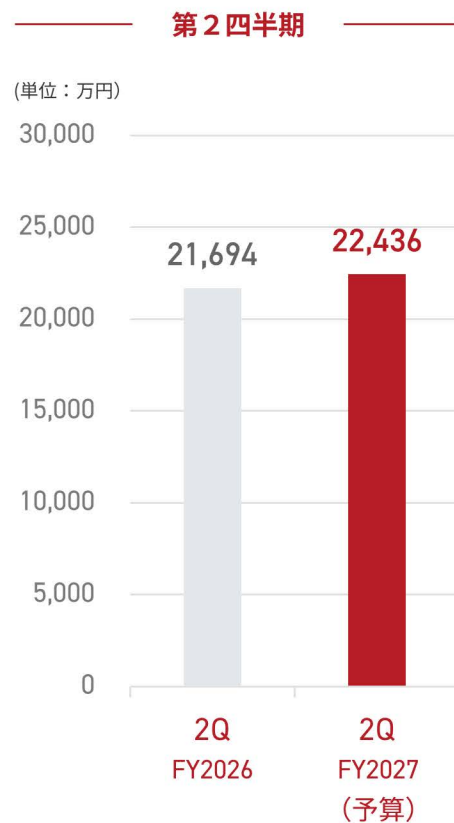
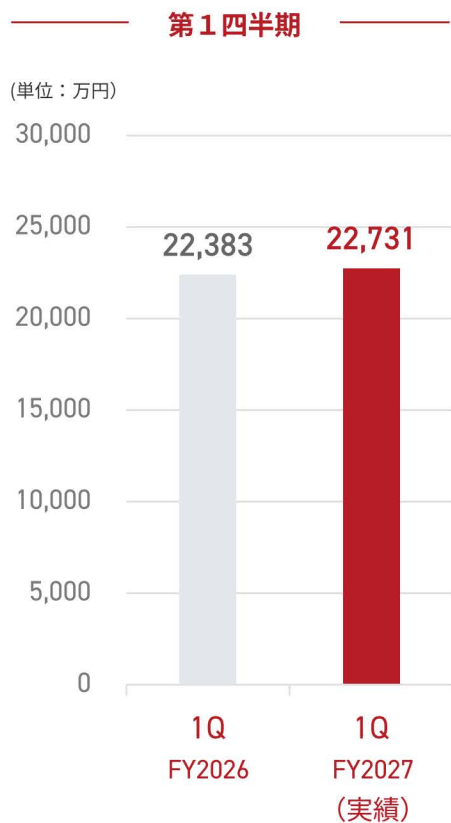
## 四半期売上高8.2%増

当第1四半期売上高は法人施設案件が順調に推移したことで前四半期売上高から8.2%増。通期四半期も前四半期売上からの成長を目指す。



## 原材料高騰等の影響を受け、売上総利益は微増

売上高成長に対し、建築資材等の原材料の高騰、長引く円安影響を受け売上総利益は1.6%増となった。



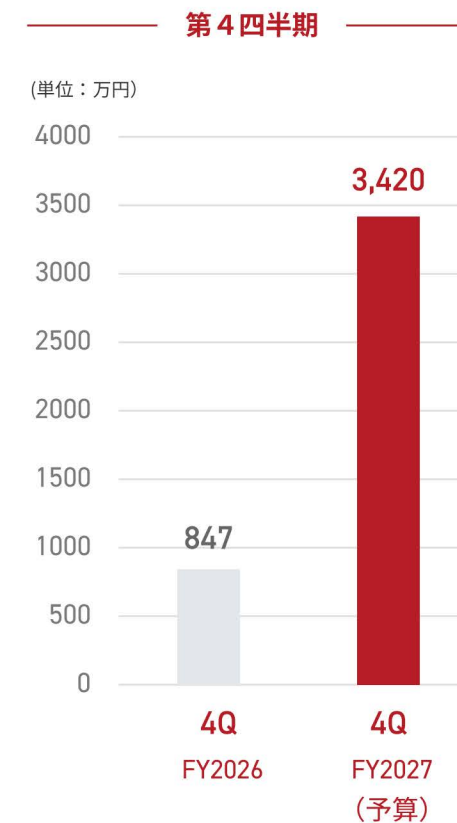
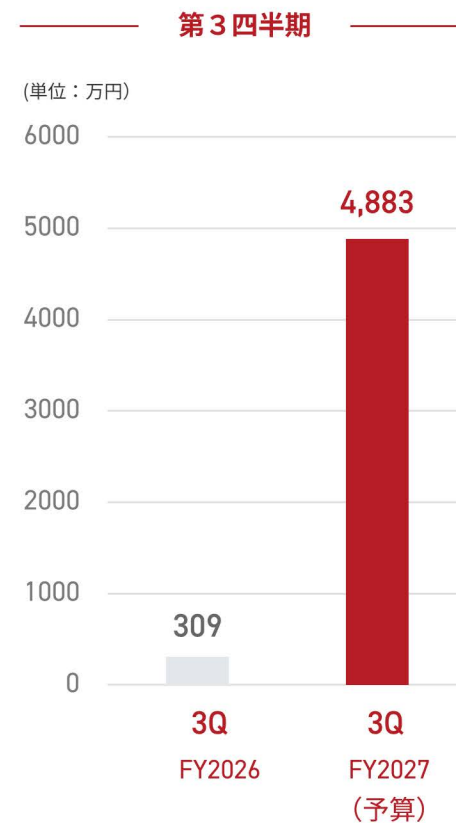
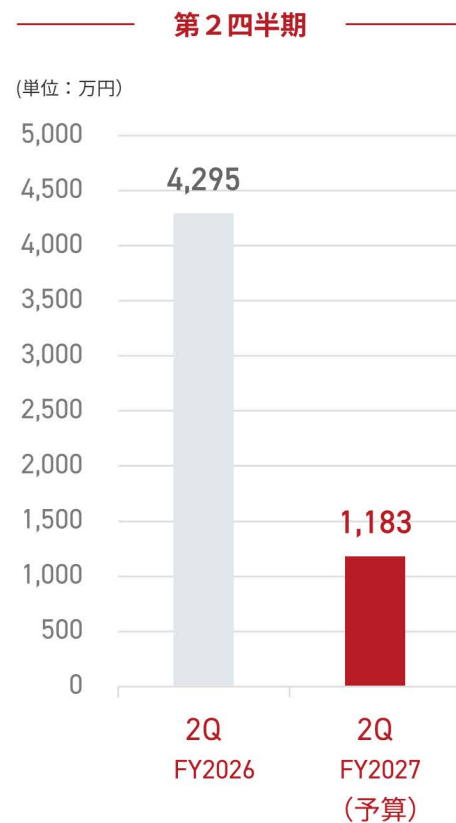
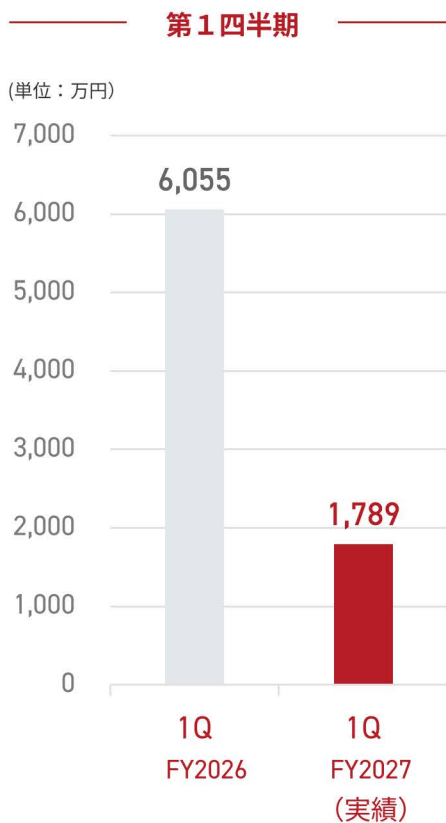
## 樹脂系建材の価格上昇影響を受けつつも、利益率は一定水準を確保

ナフサ由来原材料の需給逼迫に伴う、樹脂系建材等の原材料価格上昇下でも売上総利益率は34.3%と一定の利益率を確保。



## 事業領域の拡大、営業人員の強化による中長期成長を目指す

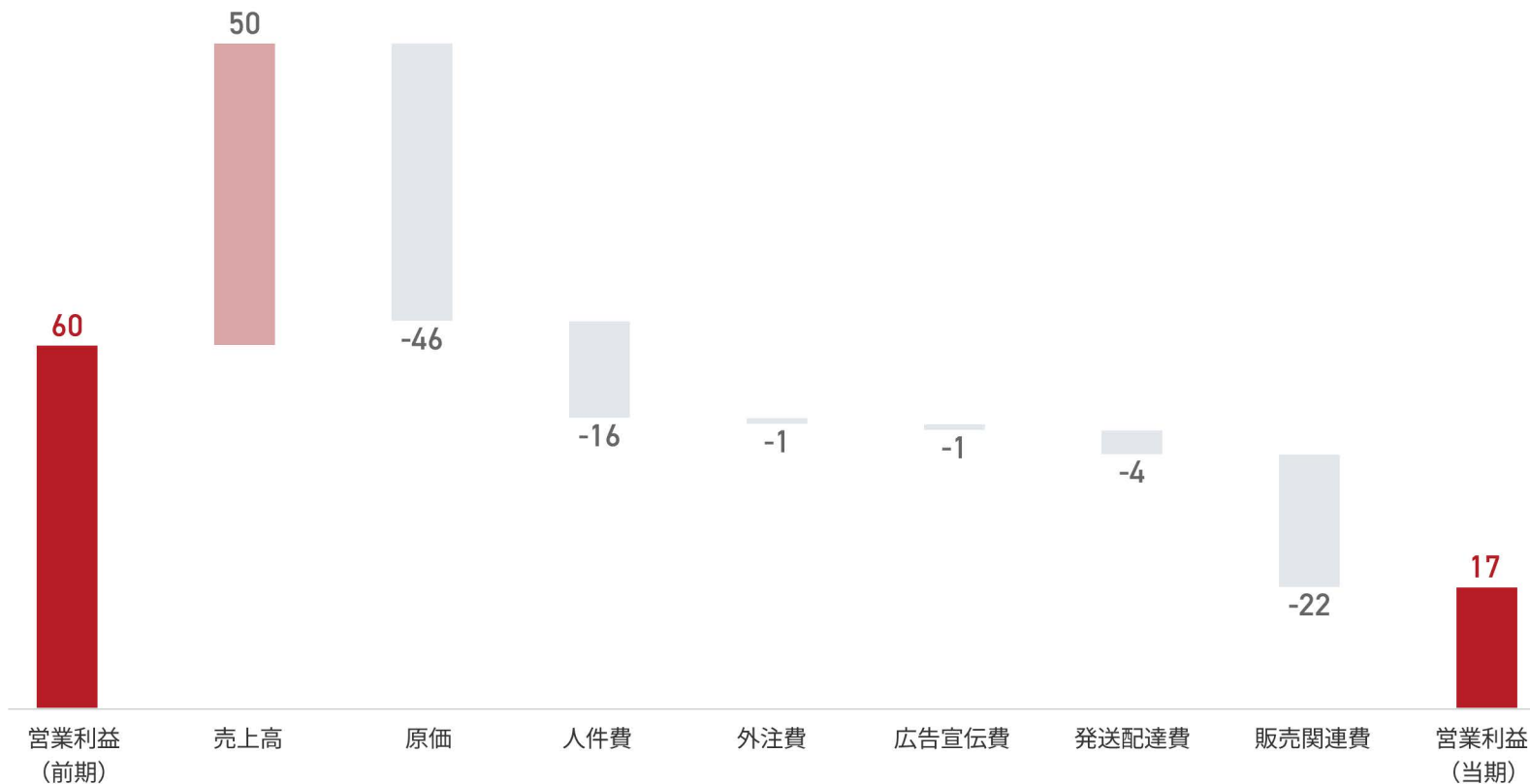
新規2社連結により、遊休地や空きスペース等未活用空間の活用提案など、グループシナジーを強化。同時に営業人員の強化を図り、新規法人取引先、営業エリアの拡大を行った中長期での基盤整備フェーズ。積極的な人員採用、内部管理体制の整備に取り組んだことで営業利益1,789万円となった。



**グループシナジー効果・営業人員強化により売上増加した一方、原価高騰の影響を受け営業利益減少。**

事業領域の拡大によるグループシナジーの創出、今後の販売戦略の強化に向け採用強化に取り組んだことで売上増。一方で、建築業界におけるナフサ由来原材料の調達環境悪化により、樹脂系建材等の価格上昇・納期影響を受けたものの、案件別の採算管理、価格条件の見直し、発注管理の徹底により営業黒字で着地。

（単位：百万円）

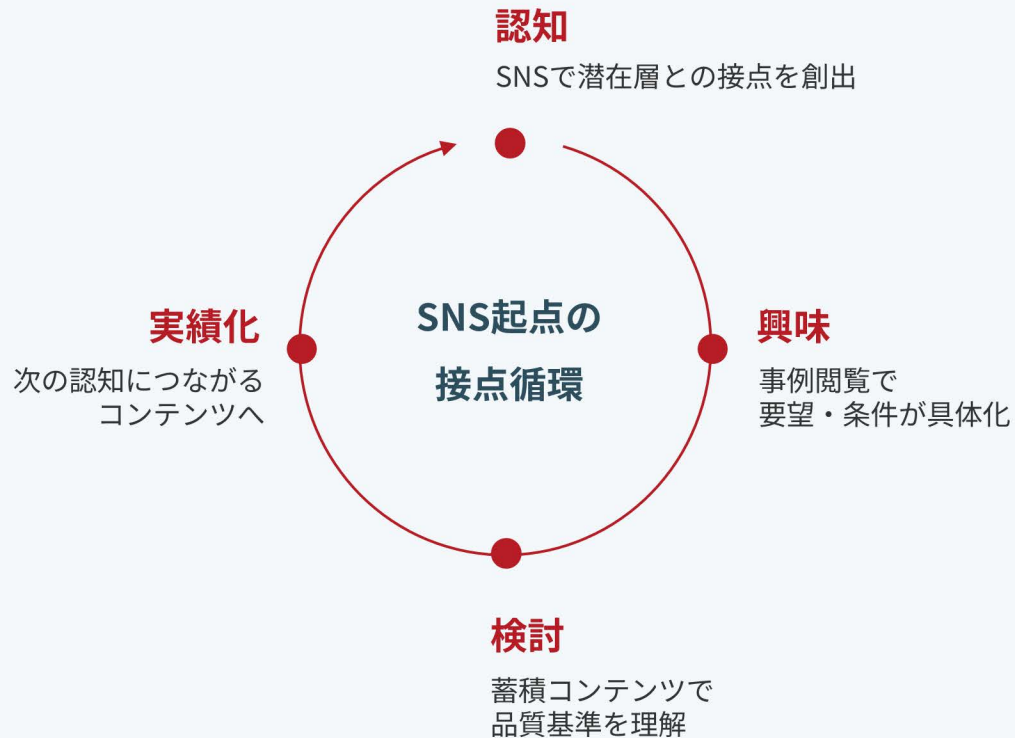


短期借入金の実行及び長期借入金の増加に伴い、自己資本比率が15.7%

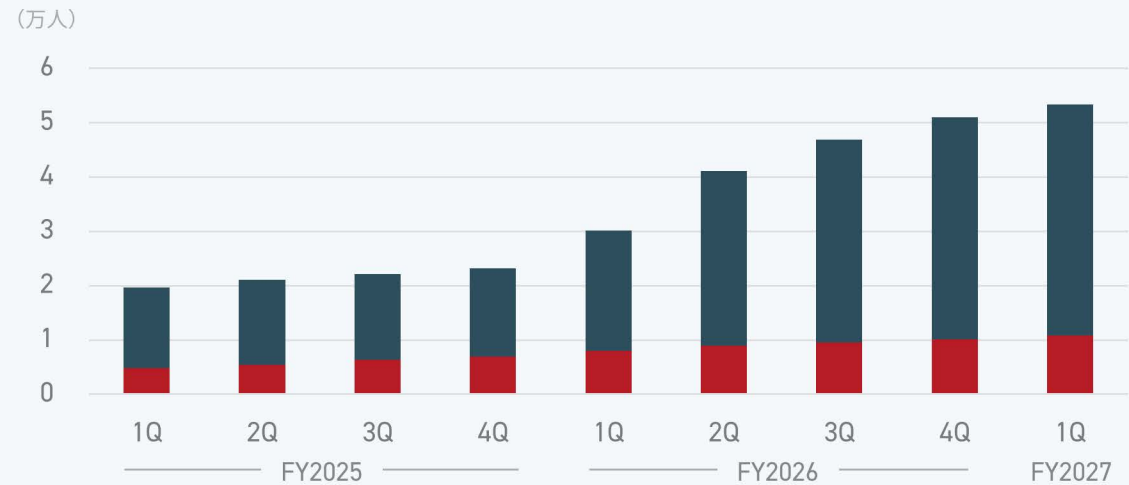
科目 (単位: 万円)	2027年2月期 第1四半期 (連結)	2026年2月期末 (単体)		2027年2月期 第1四半期 (連結)	2026年2月期末 (単体)
<b>流動資産</b>	<b>124,713</b>	<b>105,485</b>	<b>流動負債</b>	<b>90,815</b>	<b>76,676</b>
うち、現預金	19,606	18,419	うち、買掛金及び工事未払金	20,794	19,490
うち、受取手形、売掛金及び契約資産	81,679	65,189	うち、短期借入金	46,089	35,000
うち、棚卸資産	16,874	17,114	うち、1年内返済長期借入金	9,914	7,914
<b>固定資産</b>	<b>33,446</b>	<b>29,850</b>	<b>固定負債</b>	<b>42,329</b>	<b>35,579</b>
うち、有形固定資産	26,911	25,136	負債合計	133,145	112,256
うち、無形固定資産	1,824	1,998	株主資本	24,898	23,079
うち、投資その他の資産	4,709	2,715	純資産合計	25,013	23,079
<b>資産合計</b>	<b>158,159</b>	<b>135,335</b>	<b>負債純資産合計</b>	<b>158,159</b>	<b>135,335</b>

SNS合計フォロワー数5.2万人（前年同期比177.3%）。引き続きSNS戦略を強化し、フォロワーの獲得、収益へとつなげる。

SNS起点の顧客接点サイクル



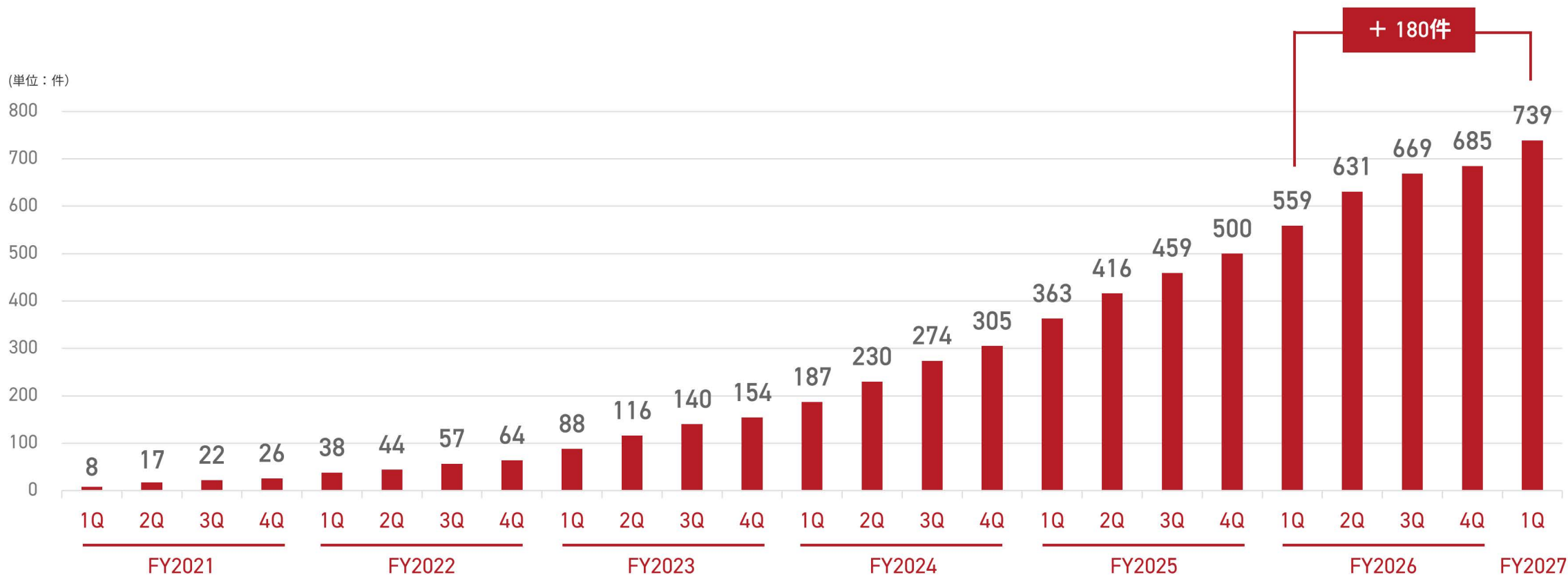
Instagramフォロワー数



DEPOS公式 (@depos_2016)	ハンワホームズ公式 (@hanwahomes)	合計
約 <b>4.2</b> 万人	約 <b>1</b> 万人	約 <b>5.2</b> 万人

## 法人取引先累積件数の増加により全体売上が押し上げ

法人取引先累積件数700件を突破。 前期1Qの559件から180件増と着実に増加。今後も継続した展示会出展を重ね、安定した法人案件獲得を目指す。



2027年2月期 第1四半期

# セグメント別ハイライト

## 従来の2事業に加え、連結開始に伴い不動産販売事業を新たに表示

2027年2月期第1四半期より、従来の空間創造事業・DEPOS事業に加え、連結子会社を通じた不動産販売事業を新たな売上区分として表示する。

01

### 空間創造事業

#### 屋外空間の設計・施工

住宅外構、商業施設、公共空間等を対象に、屋外空間の企画・設計・施工を行う。

02

### DEPOS事業

#### 屋外家具・資材販売

屋外家具・ガーデン資材等の販売を通じ、空間提案と商品供給を担う。

03

### 不動産販売事業

#### 遊休不動産の再生・販売

連結子会社を通じ、遊休不動産等の取得・再生・販売を行う。

## 新たな事業領域とする「不動産販売事業」

ブレイントラスト株式会社の子会社化に伴う、事業領域がスタート。土地情報の獲得から遊休地や空きスペースの利活用の提案を行うことが可能になり、既存事業の更にも上流から事業を進めることが可能になった。

(単位：万円)		2027年2月期 第1四半期（連結）	2026年2月期 第1四半期（単体）	増減	増減率
空間創造事業	売上高	42,268	41,105	1,163	2.8%
DEPOS事業	売上高	23,059	20,168	2,891	14.3%
不動産販売事業	売上高	1,185	—	—	—
連結消去	売上高	△215	—	—	—
グループ連結	売上高	66,297	—	—	—

2027年2月期

# 連結業績予想

## 当第1四半期は概ね計画通りで着地

法人案件の施工が順調に推移した中、営業人員の強化、グループとして新体制での組織体制構築に取り組む。事業エリア、新規取引先の拡大を図ることで、より安定した事業基盤確立に努める。

(単位：万円)	2027年2月期 第1四半期（連結）	2027年2月期 （予想）	通期計画に対する進捗 （全社）
売上高	66,297	259,291	25.6%
営業利益	1,789	7,953	24.9%
経常利益	1,270	7,502	16.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,643	3,978	41.3%
1株当たり当期純利益	6.74	16.33	—

# 会社概要



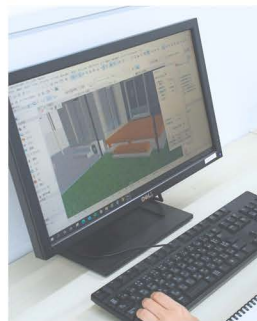
## ハンワホームズ株式会社

Hanwa Home's Co., Ltd.

代表取締役社長	鶴 厚志
住所	大阪府泉南市幡代3丁目838-1
設立年月日	平成6年7月14日
資本金	84,275,400円
従業員数	46名(2026年2月20日現在)
業務内容	建設業（一般戸建、集合住宅、商業施設等の屋外空間の設計施工） 卸し・小売業（ガーデン雑貨・屋外家具・DIY工具）

**“屋外空間”を対象に、  
企画・設計・調達・施工を  
ワンストップで提供**

単なる工事請負や小売にとどまらず、空間の価値を最大化する  
総合ソリューションカンパニーとして事業を展開。



企画設計



施工



家具調達/演出



管理/運営  
(PPP・PFI)

提供領域

**土地造成/インフラ整備**

整地・擁壁・排水などの造成工事  
給排水・電気・ガスなどライフラインの配管  
高低差や狭小地、変形地等の基盤づくり

**一般戸建の外構工事**

外構一式工事（門柱・駐車場・フェンスなど）  
設備工事（照明・防犯カメラ・EV充電器など）  
アウトドア空間の演出、利活用提案

**商業施設の屋外演出/整備**

動線・駐車場整備工事（舗装・誘導計画など）  
演出設置工事（照明・植栽・サインなど）  
滞在空間整備工事（屋外家具・ファサード演出など）

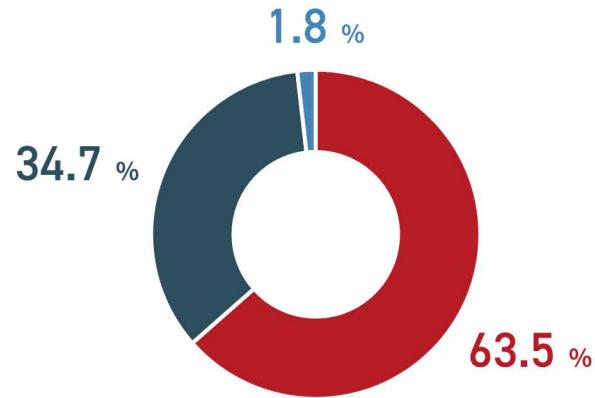
**公共空間の屋外演出/整備**

公園・広場整備工事（舗装・ベンチ・植栽など）  
Park-PFIや官民連携、街の魅力向上に資する提案

## 相互補完しシナジーを創出する事業セグメント

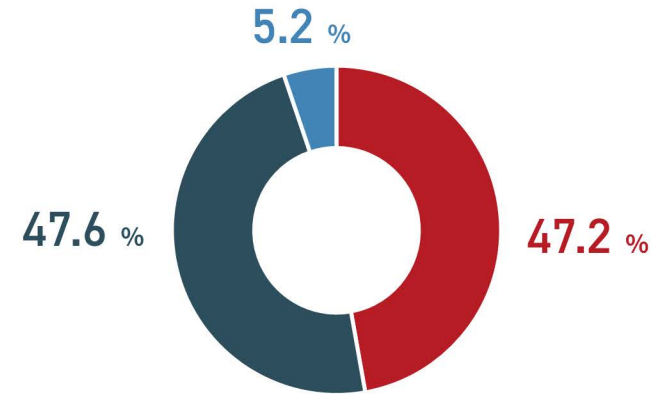
土地活用ニーズを上流で捉え提案する「不動産販売」、高付加価値な「空間創造」、安定した基盤を持つ「DEPOS」で事業を展開。

売上高構成



■ 空間創造事業	42,268	万円
■ DEPOS事業	23,059	万円
■ 不動産販売事業	1,185	万円

売上総利益構成



■ 空間創造事業	10,838	万円
■ DEPOS事業	10,923	万円
■ 不動産販売事業	1,185	万円

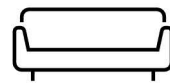
## 顧客に選ばれ続ける理由

「屋外空間」に特化した統合型モデルが独自の価値を生み出します。



### 適正工期×適正コスト

工事を一貫して担い、部材も自社調達。工程ロスと中間コストを抑え、高品質なサービスを競争力ある価格で提供します。



### 図面から家具まで

建設から家具コーディネートまで一体で設計し、統一された世界観を持つ空間を提案します。



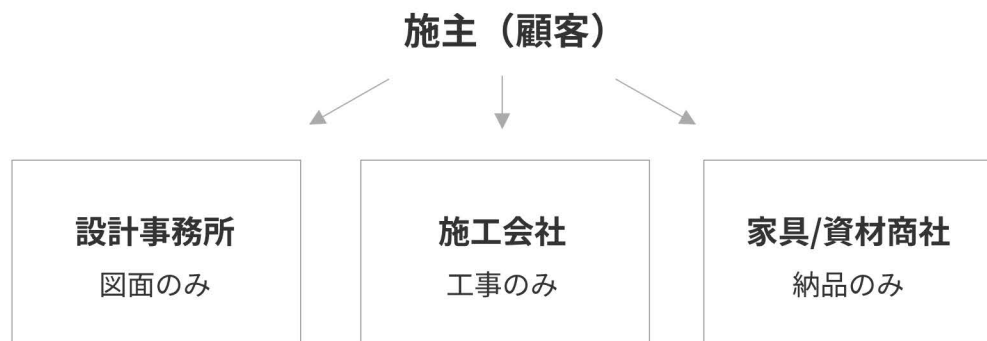
### 空間価値を最大化

動線・視線・昼夜の見え方まで設計。統一感のある仕上がりで満足度を高め、運用・維持管理の負担も抑えます。

## ビジネスモデルの違いが生む構造的優位性

設計・施工・調達を統合することで、従来の建設プロセスにおける非効率を解消

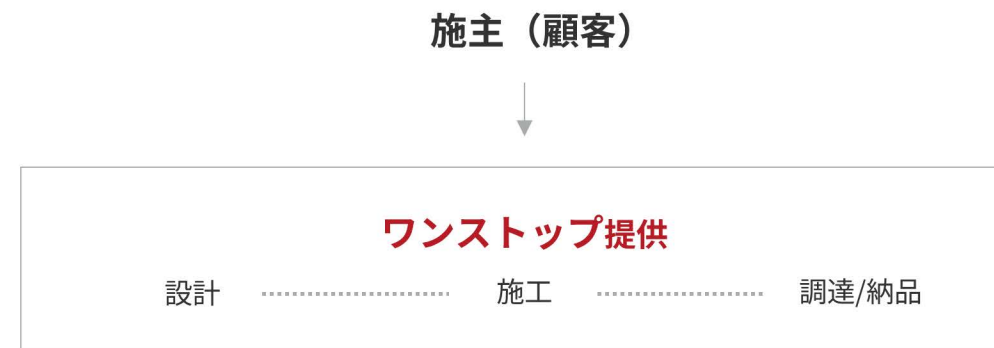
### 従来モデル（分断型）



#### 構造的な課題

- 業者間の調整コスト
- 中間マージンの多重発生

### 当社モデル（統合型）



## 多岐にわたる空間創造実績

住宅から公共空間まで、あらゆる屋外空間の価値を最大化

### 一般戸建外構工事



中高価格帯の邸宅を中心に、建物と調和した植栽・照明計画を含むトータルデザインを提供。

### 集合住宅・商業施設の屋外工事



ホテルの付加価値を高めるテラス空間や、商業施設の集客力を向上させる屋外広場を設計・施工。

### 公共工事・Park-PFI※事業



安全性と維持管理コストを考慮した公共空間の整備。地域の回遊率向上や雇用の創出を行い、街のにぎわいを設計。

## ライフサイクル全体で収益機会を最大化

「作るだけ」で終わらせず、維持・更新の循環サイクルにより中長期の安定収益を確保

### 中長期的な安定需要

1

#### 新設・整備

CREATION

- | 企画・設計・施工（住宅／商業／公共）
- | 家具・資材の調達／一括納品

収益性：高付加価値 フロー型

2

#### 維持管理・アフター

MAINTENANCE

- | 保守点検・修繕・メンテナンス
- | 追加提案（家具入替・追加等）

収益性：安定 ストック型

3

#### 更新・再生

RENEWAL

- | リニューアル／体験価値向上
- | 老朽化更新・性能改善

収益性：中～高利益 アップセル型

既存事業とのシナジーを重視し、水平、垂直の両面からM&Aを推進。



※住環境：住宅に限らず、人の居住・滞在・生活を取り巻く空間的・社会的環境全般を指す。

本資料に含まれる当社の将来の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でない記述は、作成時点において入手可能な情報に基づく当社の判断による予測です。これらの記述は、既知および未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでおり、実際の業績や財務状況等は、これらの予測と大きく異なる可能性があります。

当社は、本資料に記載された将来見通しに関する情報の正確性や完全性を保証するものではありません。また、新たな情報や将来の事象等により、これらの見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。投資に関する最終的な決定は、投資家の皆様ご自身の判断において行われますようお願いいたします。

 Hanwa Home's